

2013年10月16日

全4頁



## おカネはどこから来てどこに行くのか —資金循環統計の読み方—

第1回

# 日本人一人当たり 1,250 万円の資産?!

金融調査部 主任研究員  
島津 洋隆

このシリーズでは、日本のお金の流れをわかりやすく解き明かしていきたいと思います。この際、手掛かりとして資金循環統計という統計を用いていきます。資金循環統計とは何なのかは次回説明しますが、一言でいえば、お金の流れを包括的に表した地図のようなものです。今回は日本人（家計）が持っているお金（家計金融資産）に注目してみます。

## 日本人一人当たり約 1,250 万円の金融資産を持っているのは本当？

**Q1** ニュースなどで「日本の家計の金融資産は 1,590 兆円」と報じられています。一人当たりになれば 1,250 万円ですが、本当ですか。

**A1** その根拠は、日本のお金の流れの地図に相当する「資金循環統計」（日本銀行作成）にあります。ここで、家計の金融資産残高は 2013 年 6 月末時点で 1,590 兆円であることが示されています。これを日本人一人当たりで換算すると 1,250 万円になります。

**Q2** 1,250 万円も金融資産を持っている人は多くないと思いますが。

**A2** 資金循環統計では総額しかわかりません。その総額は少数の高額資産保有者によって引き上げられているので、単純平均値だけでみると多くの人が実感と異なる印象を抱くかもしれません。

資金循環統計では示されませんが、別の世帯別の調査からわかる中央値<sup>1</sup>という数字を用いると、より実感に近いと思います。



1) 調査対象世帯を金融資産保有額の順に並べて、中位（真ん中）に位置する世帯の金融資産保有額を指す。

たとえば、「家計の金融行動に関する世論調査〔二人以上世帯調査〕（2012年）」（金融広報中央委員会）によると、一世帯当たりの保有金融資産（金融資産を保有していない世帯を含む）の平均値は1,108万円（事業性の預貯金等は含まず）ですが、中央値は450万円という結果が出ています。ちなみに世帯主の年齢階層別の平均値と中央値は図表1の通りで、年齢層が高いほど金融資産の保有額は増えていく傾向にあります。

図表1 世帯毎の金融資産の保有額（世帯主年齢階層別、2012年）

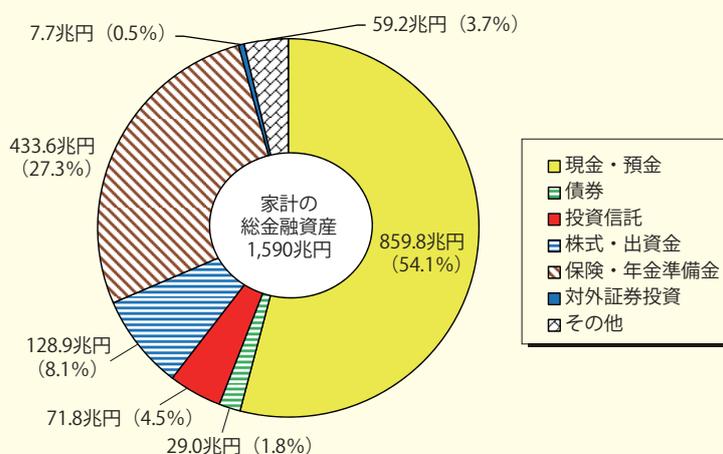
世帯主年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	全世代
平均値	239	406	698	1,051	1,632	1,410	1,108
中央値	70	200	363	400	800	600	450

（注）万円単位。金融資産を保有していない世帯を含む。  
（出所）金融広報中央委員会より大和総研作成

**Q3** 日本人はどのような金融資産を持っているのですか。

**A3** 金融資産残高1,590兆円のうち、「現金・預金」が860兆円（構成比54.1%）、「保険・年金準備金」が434兆円（同27.3%）、「株式・出資金」が129兆円（同8.1%）、「投資信託」が72兆円（同4.5%）、「債券」が29兆円（同1.8%）です（図表2）。「現金・預金」が金融資産の中で最も大きな資産となっています。

図表2 家計の金融資産の構成（2013年6月末）



（注）カッコ内%は家計の総金融資産に対する構成比  
（出所）日本銀行「資金循環統計」より大和総研作成

資金循環統計の家計金融資産の中には、純粋な個人の金融資産だけでなく個人事業主の事業性資金も家計の金融資産に含まれています。また、企業年金・国民年金基金に関する「年金準備金」<sup>2</sup>、ゴルフ場預託金等などの「預け金」、預貯金の経過利子などの「未収・未払金」など、一般に皆さんが必ずしも金融資産と認識していないものも含まれています【次ページ補足を参照】。

2) 年金準備金とは、私的年金の積立金のうち、その加入者の持ち分に相当する部分のこと。具体的には、企業年金（厚生年金基金、確定拠出年金、確定給付企業年金）、その他年金（国民年金基金等）の運用資産に相当する額に加えて、かんぽ生命保険（旧簡易保険）、生命保険会社、共済保険の個人年金商品に係る責任準備金も含まれる。

【補足】

2013年6月末時点で、「年金準備金」、「預け金」、「未収・未払金」など、必ずしも金融資産と認識されていないものを控除すると、家計の金融資産残高は、1,344兆円となります。さらに、仮に家計の金融資産の中に個人事業主の事業性資金が10%混入しているとする、それを除いた「純粋な」家計の金融資産残高は、1,209兆円となり、1人あたりに換算すると約950万円の金融資産を保有していることとなります。

なお、家計の預金は、銀行などの「預金取扱機関」に預けられ、「預金取扱機関」はそれをもとに、「民間非金融法人（事業会社）」に融資したり、国債購入という形で政府に向かったり、という流れを資金循環統計より捉えることもできます。

図表3 家計の預金資産の主な流れ

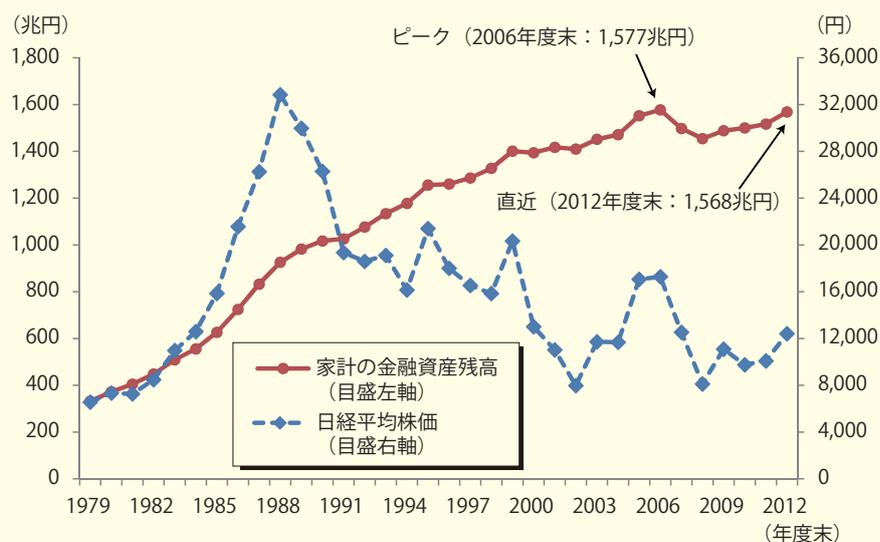


(出所) 大和総研作成

Q4 家計の金融資産残高は過去最高水準に近いようですが、バブル崩壊の影響はなかったのですか。

A4 1979年度末以降の家計金融資産の推移をみると、バブル崩壊による株価の大きな下落にもかかわらず、ほぼ一貫して増加し続けています。2007年6月末の1,602兆円をピークに伸び悩みましたが<sup>3</sup>、再び増加基調にあります(図表4)。

図表4 家計の金融資産残高と株価の推移



(出所) 日本銀行「資金循環統計」、日本経済新聞社より大和総研作成

3) 図表4は年次データのため、本文中の数値とは一致しない。

---

バブルのピークである 1989 年度末と比べると、株価は大幅に下落しましたが、2013 年 6 月末時点での金融資産残高は 6 割増え、中でも増えたのは現金・預金（1.9 倍）、年金準備金（3.9 倍）です。一方、株式・出資金は 36.6%減少しています。

**Q5** 家計の金融資産残高はどのように調べて作られているのでしょうか。

**A5** 金融機関の財務諸表、預金統計（「預金者別預金」等）、貸出統計（「貸出先別貸出金」等）、債券市場・株式市場に関する統計を主な基礎データとして推計されています。

また、家計は、個人企業を含んでいることから、個人企業が抱える負債については、「法人企業統計季報」や「貸出先別貸出金」を用いて推計されています。

（次回予告：「お金の流れの地図＝資金循環統計とは？」）  
以上